第5分科会

テーマ	介護支援専門員の専門性を生かす施設ケアマネジメントを考える
趣　旨	要介護状態の高齢者ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援する「地域包括ケアシステムの構築」を目指し、施設も在宅生活の継続を支えるひとつのツールとして重要な役割を担っています。 現代における施設ケアマネジメントは、その特徴を生かし施設内におけるサービスの質の向上だけでなく、地域に存在する様々な社会資源と連携しつつその活用を図ることが注目されているところです。入退所時のみならず、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の介護支援専門員や家族との連携を図ることにより、利用者支援を施設と地域を一本の線でつなげる視点が施設の介護支援専門員には求められています。 また、「その人らしい自立」の実現にむけた個別性に目を向けることは、施設においても尊厳の保持を念頭においた望む生活の構築へとつながります。 そのためには、施設の介護支援専門員を中心とした多職種で開催するケアカンファレンスなど、そのチームケア力の向上が求められているところです。 しかし、現場においては介護職員の不足などの問題も含め、個別性のある施設ケアプランの作成や計画に基づいたサービス利用の満足度が把握しにくいなど多くの課題があるのが現状です。 第５分科会では、介護支援専門員の専門性を活かす施設ケアマネジメントを考えるをテーマに、施設における介護支援専門員の現状や取り組みを中心に議論したいと思います。
キーワード	①ターミナルケアにおけるケアマネジメント ②在宅復帰に向けた支援 ③施設における多職種連携 ④施設における介護支援専門員の役割 ⑤介護支援専門員が機能を発揮できる施設の環境づくり ⑥ ICT、介護ロボットを活用したケアマネジメント ⑦本人の想いの実現 ⑧その他